

Capnocytophaga canimorsus 感染症の情報提供に努めよう

—第9回「人と動物の共通感染症研究会」学術集会の発表を受けて—

荒島康友[†] (日本大学医学部助教)



「人と動物の共通感染症研究会」(http://www.hdkkk.net/, 事務局：北海道大学大学院獣医学研究科)は、動物由来感染症に関する学術研究の推進並びにその成果の普及を図り、動物由来感染症の発生の予防及びその蔓延の防止に寄与することを目的として平成13

年に設立された研究会である。従来、動物由来感染症については獣医学、医学等の各々の分野で研究が進められていたが、本研究会の活動により複数の専門分野の研究者が一堂に会して研究発表や情報交換を行い、対策の推進が図られるようになってきた。現在、会員数は360名、省庁職員、地方公務員、医学系・獣医学系の国公立大学、開業獣医師等広範囲な会員を擁し、秋の学術集会を行い、年1回ニュースレターを発行している。

このたび、2009年11月7日(土)に東京都・文京シビックホールにおいて、第9回「人と動物の共通感染症研究会」学術集会が開催されたが、発表された犬、猫に関連した一般演題の内容が、今後、犬猫等のペット飼育及び獣医療・診療現場をはじめ、社会全体への影響が危惧される事例であったため、いち早く情報提供をする必要があると考え、ここに紹介させていただく次第である。

今回、ここで取り上げる演題は、『*Capnocytophaga canimorsus* 感染 (鈴木道雄, 今岡浩一, 他: 国立感染症研究所獣医科学部)』であり、発表の概要は以下のとおりである。本感染症は、犬・猫の口腔内常在菌の一つであるグラム陰性桿菌の *Capnocytophaga canimorsus* による感染症であり、人には、犬、猫の咬傷により感染すると考えられている。本邦での本菌の保有率は、犬で92.3%、猫で86.1%と比類ない高さである。人での発症は稀であるが、敗血症で発症することが最も多く、急速な転機を取り、死亡率は、本邦では45.5% (今回の発表: 5/11例) と高い。患者は、Compromised

hostばかりでなく、基礎疾患のない患者でも発症し同様な経過をたどることがある。治療の第1選択薬は、オーグメンチン (amoxicillin/clavulanic acid) であるが、シプロキサラン (CPFX) も有効である。予防として、咬傷時にオーグメンチンを予防的に投与することが重要であり、推奨されている。なお、人の本感染症の全容解明はこれからと考えられる。

現在マスコミから、発表内容の問い合わせがあるが、単に死亡率45.5%、菌保有率(犬: 92.3%, 猫86.1%)というデータのみを取り上げられると、ペット飼育者をはじめ、社会に対し必要以上に不安を煽ることにもなりかねない。

私自身、過去に別の共通感染症について、現状や予防法を伝えるために発表を行った際、感染防止のためにペットを飼育すべきでないという医師に発言されたり、事例を公表するから、ペットの遺棄が増加すると獣医師から批判を受けたが、本疾患の感染源、感染経路、感受性集団等について正しく理解し、予防法等の指導ができる獣医師が、ペット飼育者、受傷者、医師、マスコミ等に対し、『知るワクチン (現状を正しく知り、具体的予防を実行すること)』の考え方にに基づき適切な情報提供を実施することが重要な対策の一つと考える。

については、本感染症が、従来の共通感染症と比べ、類のない菌保有率、死亡率であることから、今後、各都道府県の獣医師会において、『*Capnocytophaga canimorsus* 感染症』の勉強会を行い、具体的で有効な予防対策があることを、可及的速やかにペット飼育者、医療サイドへ伝達し、無闇な不安を煽らぬよう努めていただきたい。

ある感染症が存在し、また、その存在が人に危害を加えることも事実である。そのデータが社会的驚異であっても、この事実を目を背けず正しく認識し、正しい対応策を実行すること、すなわち我々、各職場における獣医師が職務を持って社会に貢献することこそ重要であると思われる。

[†] 連絡責任者: 荒島康友 (日本大学医学部病態病理学系臨床検査医学分野)

〒173-8610 板橋区大谷口上町30-1 ☎03-3972-8111 FAX 03-3957-7757

E-mail: ara1145145@yahoo.co.jp